

王寺町女性活躍推進事業

個別事業費	532 千円
交付金額	265 千円

地域の実情と課題

当町の女性就労状況は、結婚、出産を機に退職が多く、全国に比べて女性の労働力率を示すM字カーブが深く、県の平均値より低い状況である。女性の専業主婦率も高く、ワークライフバランスと身近に自分の能力に応じた働き場があれば地域の活性化に貢献できると考えている。まず、家庭での固定的男女役割分担を払拭する意識啓発と等身大の女性が活躍しているロールモデルを示し、自分らしく輝けるライフスタイルを提言することが求められている。

事業の特徴

- ①就業・起業を促進すると同時に、家庭内のワークライフバランスが必要で、特に家庭内の女性の家事負担を軽減する必要がある。男性にも育児、家事等を積極的に取り組む環境として、様々な分野(料理、子育て、就業、等身大の活躍する女性、イクボス等)の講師を招いてセミナーを開催。
- ②防災分野の第一人者である河田恵昭関西大学特別任命教授に「男女共同参画の視点から考える防災の話」として講演を依頼し、東日本大震災を風化させないためにも、3月16日に講演を実施

事業の効果

- ①女性の家庭での家事負担を軽減し、拘束時間を短縮することで、自分らしく輝ける時間を確保できる。このことで、女性活躍による地域活性化が期待できる。また、モデルを示すことで、女性活躍をより身近なものとして感じることができ、自分らしさの発見につながった。
- ②講演会には150名が参加、アンケートを実施し、54.7%の回収率であった。講演会の感想では、アンケート回答者の73.1%が「大変良かった」「よかった」の回答であった。意見では、男女共同参画について良くわかった。との意見が多数あった。

目的・目標

- ①女性活躍を推進するにあたり、身近な場所で就業の場を確保すると同時に、家庭での家事負担を軽減し、男性に育児協力や家事の分担を協力してもらう意識改革が必要である。その為のセミナーを開催し、ワークライフバランスを考えてもらう機会とする。
- ②避難所を運営していくなかで男性では気づきにくい女性の視点を防災対策に反映させる必要性など、防災分野の第一人者から講演を実施。避難所のなかでの男女共同参画の理解を深める

連携団体

王寺町男女共同参画推進協議会
王寺町食品衛生協会

講演会を実施するにあたり、防災士ネットワーク、民生委員、等呼びかけ集客に努め、講演会場前には、役場の防災統括室と連携し、避難グッズを展示し啓発に努めた

今後の課題

男女共同参画の具体的施策の家庭、地域社会での固定観念払拭、男性の育児・介護休業の取得準備啓発、男性の育児期間に向けた取得準備啓発、防災活動における女性参画の推進に努めた。令和6年度は、受講者のニーズに合わせた食品衛生協会との連携する家事男子応援(料理・整頓)の継続や講師自身の経験をもとに「ワークライフバランス」「子育て支援」をテーマに講演会を行う。

事業の概要

王寺町男女共同参画計画を推進するため、ワークショップ型講座を実施 参加者 計36名

事業費300千円 補助率1/2 補助金150千円

○育児準備ワークショップ 令和5年7月30日、12月3日

具体的施策 男性の育児・介護休業の取得準備啓発

○新米パママのスタートライン講座

令和5年8月6日, 20日, 9月3日, 17日

具体的施策 男性の育児期間に向けたプログラムの提供

○防災活動での女性活躍講座 令和5年8月27日

具体的施策 防災活動における女性参画の推進

○シニアの生きがい探し講座 令和5年10月11日

具体的施策 第3の居場所づくり

○ママが働くための準備講座 令和5年11月16日

具体的施策「就職支援セミナー、就職面接会」の

情報提供の充実

○パパ株アップ講座 令和5年12月3日



『家事男子応援プロジェクト・クッキング』

(王寺町食品衛生協会連携)

具体的施策 家事男子応援(料理・整頓)の継続

男性が積極的に家事をすることで、女性の社会参画を促し、

「誰もが自分らしく輝けるまち王寺」の実現を目指した取組。

令和5年8月20日 参加者 12組18名



事業の概要

関西大学社会安全学部 特別任命教授兼 人と防災未来センター長 河田 恵昭
（よしあき）氏を講師として「（仮）男女共同参画の視点から見た防災」をテーマに講演を実施

日時 令和6年3月16日 午後1時30分から3時 参加者150名

場所 王寺町地域交流センター 事業費 232千円 補助率1/2 補助金 115千円

令和6年3月17日 毎日新聞 朝刊

女性視点で防災対策を

フォーラム 関大特任教授が講演

【王寺】

災害に強い町づくりを目指すため、王寺町地域交流センターで16日、男女共同参画をテーマにした防災フォーラム（王寺町主催）が開かれた。河田恵昭関西大特別任命教授を講師に招き、参加した約150人は防災における女性の視点の必要性を学んだ。

王寺町は2023

年、男女共同参画計画を策定した。その中に防災活動における女性参画の推進を掲げており、今回フォーラムを企画した。

河田特任教授は「男女共同参画の視点から考える防災の話」を題に講演した。16年の熊本地震の際、女性から「男女兼用の仮設トイレは怖い」と声が上が

男女別で改善されたという事例を紹介。「防災を担当する女性職員は役所に1人か2人程度しかいないのが現状」と指摘し、避難する半数が女性や子ども、高齢者であることから、男性では気づきにくい女性の視点を防災対策に反映する必要性について語った。

【木谷郁佳】

河田恵昭氏は「防災について講演する河田恵昭・関西大特別任命教授＝王寺町で」